

自己評価報告書

(令和 7 年度)

令和 8 年 1 月

学校法人 さくら学園

慈恵福祉保育専門学校

I 現 況

1 学 校 名 慈恵福祉保育専門学校

2 所 在 地 〒444-0931 岡崎市大和町字中切 1 - 9

3 電話番号 TEL 0564-32-8811 FAX 0564-32-8813 <http://sakura-g.ac.jp/>

4 沿 革

1994(平成 6)年 開校「慈恵福祉専門学校」介護福祉科

2004(平成 16)年 福祉保育学科 (3 年コース) を新設

2006(平成 18)年 保育学科を新設

1962(昭和 37)年 福祉保育学科 (2 年コース) を新設

1976(昭和 51)年 名称変更「慈恵福祉保育専門学校」

2017(平成 29)年 児童教育専攻科を設置

2017(平成 29)年 福祉保育学科募集停止

2007(平成 29)年 留学生受け入れ開始

2021(令和 3)年 福祉保育学科廃止

介護福祉科を介護福祉学科へ変更

5 学科と学生数

	1 年	2 年	合計
介護福祉科	39	35	74
保育学科	22	25	47
合 計	61	60	121

※介護福祉学科 1 年 : 休学者 1 名含む

保育学科 2 年 : 休学者 1 名含む

6 教職員数

校 長 岩瀬せつ子

学 監 久米 明美

教 員 10名

講 師 31名

事務職員 4名

合 計 45名

7 施設概要

学科教室	6	入浴実習室	1	リズム室	1
合同教室	1	介護実習室	1	個人レッスン室	3
多目的ホール	1	演習室	1	パソコン室	1
エントランス ホール	1	自習室	2	保健室	1
家政学実習室	1	ピアノ室	1	相談室	1

Ⅱ 評価基本方針

1 評価の目的

- ・心豊かで自立心に富み、社会貢献できる人材を育成する。
- ・徹底した実技指導をして技術を習得させ、質の高い職業教育ができる学校運営を改善するために行う。

2 評価の基準

- ・制定した教育目標や計画に照らし、下の4段階で評価する。
適切・・・4、 ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、 不適切・・・1
- ・学内アンケートを行う。

3 評価の公表

学校評価の結果は、「学校ホームページ」にて公開する。

4 評価結果の活用

- ・評価委員会において、課題の洗い出しを行い次年度に向け目標を設定する。
- ・全教員共通認識のもと、役職・教務・学生指導・校務の分業単位で改善に取り組む。

1 学校の教育目標

本校は、「心豊かで自律心に富み、社会に貢献できる人材を育成する」という教育方針に基づいて教育を行っている。具体的な教育目標として次の2項目を掲げている。

- (1) 人として生きてゆくための人格形成の場として、「介護・保育現場では答えは一つではない。」ことを自覚し、おかれている状況を分析し、考え柔軟に対応できるようになるための教育支援をする。
- (2) 本校の4つの専門学科(介護福祉学科・保育学科)における専門的な技術が、生涯を生きる支えや心の糧となるように、それぞれの学科・学生の実態に応じた学習支援をする。

2 本年度の重点目標

30年の歴史と伝統を守りながら、時代の流れや社会のニーズに対応した改革心を持ち、社会に貢献できる人材の育成に努める。特に、校訓「自己覚知」に込められた自身をしっかり知り、改善すべきところは改善し、常に相手を思いやり相手の立場に立ち慈しみの心を根底において教育支援をする。

IV 評価項目の達成及び取組状況

＜教育理念・目的＞

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1
・学校における職業教育その他の教育指導等の特色が押さえられているか	4	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者・非常勤講師等に周知されているか	4	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1

①課題

- ・前項1、2に基づき、教職員全員が共通理解の下に実践する。

②今後の改善方策

- ・本校が目指す教育方針の理解を求める知らせを、学生及び保護者の意識や価値観を想像しながらできるだけ丁寧に周知していく。

<学校運営>

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4	3	2	1
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	3	2	1
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1
・ 学生の健康管理を行う組織体制を整備し運営しているか	4	3	2	1

①課題

- ・ 組織図を作成し、運営しているが十分に周知されていない可能性がある。

②今後の改善方策

- ・ 年度の初めに全員で組織図の確認をするが、役割を明確に示していく。

③特記事項

- ・ よりよいチームワークで学生への支援を行っていく。
- ・ 情報の共有化と守秘義務の遵守体制を構築する。

<教育活動>

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
・人材育成に沿った教育課程の編成・実施方針の周知を図っているか（学生・教職員・HPによる外部への周知等）	4	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体、卒業生等の意見を聞く機会を設け、教育課程を編成しているか	4	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等と連携して実践的な職業教育が実践されているか（実習事前・事後の打ち合わせを行う）	4	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
・講義、演習などにおけるアクティブラーニングを展開しているか	4	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等と連携をして実習、実技、演習を行っているか（巡回指導教員と実習指導者が連携を図り各段階における「達成目標・課題」について確認している）	4	3	2	1
・職業教育において人材育成が示す能力が身につくような取り組みを行っているか（カリキュラムに沿った授業・シラバスに沿った授業を実施しているかの調査を行っている）	4	3	2	1
・倫理的行動（身体拘束禁止・虐待防止・ネグレスト）について考える機会を導入しているか	4	3	2	1
・障害者・障害児に関する基本的な知識・技術を習得できるプログラムを導入しているか	4	3	2	1
・自立支援や予防を目的に潜在能力を引き出す技術が身につくプログラムを導入している	4	3	2	1
・専門分野における資格、要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
・教員の資質向上への取り組み、施設、保育園などと連携した研修会を行っているか	4	3	2	1

・教員の資質向上への取組として授業評価を行っている	4	3	2	1
・必要な組織体制を整備しているか	4	3	2	1
・成績会議、単位認定、進級・卒業判定の基準を明確に定めており、適正に運用しているか	4	3	2	1
・学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運用しているか	4	3	2	1
・卒業生への支援体制を整備し、適切に運営しているか	4	3	2	1
・学生相談に関する体制を整備し、適切に運営しているか	4	3	2	1

①課題

- ・実施教員による自己評価は行えるようになったが、他教員評価による研究授業などは十分に行えているとはいえない。
- ・職員の能力開発のための研修機会・研修時間の確保。

②今後の改善方策

- ・計画的に研究授業を取り入れて行く。
- ・講義録内に授業評価を加え、分析することで次年度への取り組みに変化がみられているため、引き続き行っていくよう努める。
- ・教職員自らの専門分野等の知識・技術向上を図る。

③特記事項

- ・授業内にアクティブラーニングを取り入れるようにしている。
- ・介護福祉学科においては、留学生の質の向上を図るためにグループ分けをし、授業外でレベルに応じた日本語学習を取り入れている。
- ・各学科の特色を持ったカリキュラムに取り組んでいる。
- ・介護福祉士・保育士以外にも多くの資格が取得できるよう取り組んでいる。

<学生指導等>

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 基本的生活習慣の確立のため取組が行われているか	4	3	2	1
・ 学生、留学生に対する相談体制を整備し、適切に運営しているか	4	3	2	1
・ 学生・保護者からの相談体制が整備されているか	4	3	2	1

①課題

- ・ 留学生の健康管理、寮の衛生面の管理を強化する必要がある。
- ・ 年金、健康保険料、市県民税などの滞納があるため、定期的に確認の必要がある。
- ・ 学生による保護者への伝達不足により、周知できていない出来事があったことから、保護者との連携をより強化する必要がある。

②今後の改善方策

- ・ 寮の衛生面に関して、業者変更により虫駆除を行ったところ良い状況となっている。
今後、学生自身の衛生管理の徹底も踏まえ様子を見ていく。
- ・ 滞納によるリスク（ビザ更新に影響する）などを周知させ、支払い期日を守るよう指導する。報告を受けたところで、即対応していく。
- ・ 家庭との連絡を一層密に行い、必要であれば家庭訪問を行う。

③特記事項

- ・ 一昨年度後期から留学生間で自治会を立上げ、学生自ら衛生面管理の意識付けをしており、効果はでている状況である。
- ・ 学生からの要望・不満等、前期・後期でアンケートを実施し対応している。
- ・ 保護者との連絡も密にしており、家庭と学校とが情報を共有し相談活動を充実させることで、学生の健全な育成に努めている。
- ・ 留学生に対し、適切な対応ができるよう担当者を付け役割分担している。
- ・ 教職員間で情報共有ができるよう令和6年12月より月末に定例会を開催し、各クラスの情報共有及び問題事例に対する対策検討を実施している。

<学習成果>

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・ 学生が身に付けた学修成果は、目標とする水準にあるか	4	3	2	1
・ 目標達成が十分でない場合、教育活動などの改善を図っているか	4	3	2	1
・ 就職支援・相談体制を確立し、就職率向上に十分取り組んでいるか	4	3	2	1
・ 就職率は目標とする水準にあるか	4	3	2	1
・ 離職率や職場定着率を改善する取組をしているか	4	3	2	1
・ 国家試験受験対策の体制を確立し、合格率向上への取組を行っているか（介護福祉学科）	4	3	2	1
・ 国家試験の合格率は目標とする水準にあるか（介護福祉学科）	4	3	2	1
・ 退学率低減への取組を実施し、目標とする水準にあるか	4	3	2	1

①課題

- ・ 学習面において目標水準に達成していない学生が存在する（留学生を含む）ため、改善する。
- ・ 介護・保育に関しては多くの求人があり、引く手あまたの状況であることより、学生に適した施設・園への就職へと結びつけることが必要である。
- ・ 学生に自己の不足点を理解させ、改善できるよう2年間で臨ませることに取り組んでいるものの、数名の学生において変化が見られない。
- ・ 国家試験合格率に関して、グループレベルに合わせ担当教員が進捗状況を把握し、進めた。また、アルバイトを1月は実施せず国試対策に専念させ、過去問題に全て臨ませた。更に、模擬試験を曜日固定設定し、本人に習得状況を把握させたが、目標値には達成できなかった。
- ・ 学生の家庭、人間関係事情等悩み事を早期に把握し、退学者を防ぐ。

②今後の改善方策

- ・ 個別対応として、分かりやすく砕いて説明し、理解できるように対応する。
- ・ 卒業生の動向を施設・園等訪問の際、しっかりと把握する。退職している場合は、本人の希望により、関わりを継続しフォローアップする体制を整える。

- ・今回の介護福祉士国家試験は、介護実践に結び付ける問題が多かったといえる。留学生においては、長文において意味を推察することが不足していたといえる。
日本人は、全員合格圏内である。

次年度に向けての対策として、音読・分解・書くを徹底し、行事を国家試験3ヶ月前には組み入れず国試対策授業に専念できるようにしていく。また、国家試験の傾向として、現場実践に関する問題が多くなってきているため、アルバイトを介護系に変更していく。

- ・退学者は今年度若干名おり、進路変更が理由であった。入学時に、仕事内容のイメージが今以上に明確になるよう伝えていき、卒業に結び付けられるよう努める。

③特記事項

- ・就職指導は、卒業生による講話、模擬面接等採用試験対策を実施している。また、就職希望施設・園へはボランティアに行き、自ら見学・体験することで各学生に適合した施設・園を決定するよう導いている。
- ・進路結果は、年度ごとにまとめ、全職員が周知している。
- ・学習能力が原因で継続が困難な学生については、保護者・学生と密に連携を図り本人が希望する方向へ進んでいけるよう努めている。

<学生支援>

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運用しているか	4	3	2	1
・ 卒業生への支援体制を整備し、適切に運営しているか	4	3	2	1
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1

①課題

- ・ 学生の家庭状況・経済状況により就学が困難になった場合、可能な限りの支援策について教員全員が情報共有する。
- ・ 留学生の生活環境の把握。

②今後の改善方策

- ・ 引き続き担任・副担任の面談及び、相談窓口を設け伝えやすい環境を作る。
- ・ 職員会議にて担任から早期に情報提供をし、職員全員で共有し対策に取り組む。

- ・留学生に承諾を得て、今後も定期的に自宅訪問をし、生活環境を把握するとともに留学生による自治会を昨年度設立したため、留学生同士でも協力していく。

③特記事項

- ・卒業生が興味を持てる卒後教育などを取り入れ、多くの同窓生が出席できる会を開催できるよう努める。

<教育環境>

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
・ 専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を図書室に配架し、学生に必要な応じ閲覧できるような環境を提供しているか	4	3	2	1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

①課題

- ・スマートフォンにおける語彙等の検索を実施し、図書室が十分活用されていない。
- ・法人内において、幼稚園 保育園 デーサービス グループホーム等の実習先があるが、さらに踏み込んだ実習内容の整備が必要。
- ・大規模災害への対策が十分検討できていない。

②今後の改善方策

- ・スマートフォンによる検索により、情報を得ることは可能ではあるが、魅力ある図書室となるよう、今後も多くの文献、雑誌等を整備する。
- ・今年度は、春・秋２回消火器訓練実施したが、更に消防署と連携した災害訓練を計画し実行する。

③特記事項

- ・今年度で開校３２年目となることで、床が大変黒ずんでいる。（年３回剥離剤・ワックスを実施）⇒今年度業者による掃除を行う予定。

< 入学者の募集、入学選考 >

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 入学者受け入れ方針を明確にしているか	4	3	2	1
・ 入学者募集活動入学者受け入れ方針に従って適正かつ効果的に行っているか	4	3	2	1
・ 入学選考方法を明確に定め、適正に運用しているか	4	3	2	1
・ 入学手続きは適正に行っている	4	3	2	1

① 課題

- ・ こども性暴力防止法に関して、入学時の書類に文言を加える必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ 入学時、保育実習の書類にこども性暴力防止法に関する書類をいれる。
- ・ 本校独自の魅力を P R する。

② 特記事項

- ・ 今までの教育のノウハウを活用し、魅力的な教育内容の整備に尽力する。

< 財 務 >

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

- ・ 事務局・学監で支出等に関してはダブルチェックをしているが、忙しいと長期分をまとめて実施している。

② 今後の改善方策

- ・ なるべく、こまめにダブルチェックをしていくよう努めていく。

③特記事項

- ・公認会計士による会計監査、規程に基づいた内部監査を行い、適正に実施されている。
- ・財務情報の報告はホームページで公開している。

<コンプライアンス等>

評価項目	適切... 4、ほぼ適切... 3、 やや不適切... 2、不適切... 1			
・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・学校評価の実施と結果の公開はしているか	4	3	2	1
・学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、結果を公開しているか	4	3	2	1

①課題

- ・学生間の SNS の利用により、学校が把握しきれないところで、個人情報(顔写真等)がネット上に流れてしまう事例等を防止する。

②今後の改善方策

- ・行事の写真閲覧等に関しては、必ず本人の同意を得、拒否する場合には削除し確認後に閲覧へと導く。
- ・SNS 利用等、情報リテラシーの向上及び情報モラルについて、職員間内で確認し、担任より学生へ問題事例等上げ周知できるようにする。
- ・学校評価の結果と対策・対応について教職員で情報共有し、自己評価によって明らかとなった改善を必要とする事項に、できることから取り組む。

<社会貢献・地域貢献>

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1

①課題

- ・ 教育資源を活かした地域貢献の推進をする。

②今後の改善方策

- ・ 防災福祉講演会を公民館で実施したが、環境の整っている本校の実習室を使用し、次年度開催していく。

③ 特記事項

- ・ 地域が企画運営する行事等に、学生ボランティアが積極的に関わり貢献している。
- ・ 月に1～2回地域ボランティア（空き缶、ごみ拾い等）を実施、また街頭監視に参加し、地域貢献のための方途を模索し続ける姿勢を大切にしている。

V 総合的な評価結果

昨年度からの改善により、各取り組み状況については「適切」「ほぼ適切」と評価できる。

今年度は、ボランティア活動は今までの状態で行えている。実習においても全員が実習体験をできるようになった。また、学生が楽しみにしていた行事が行えるようになり、特にメインイベントである「慈恵祭」も計画通り7月に実施することができた。その他、体育祭、スポーツ交流会など行事が復活したことで、先輩後輩等の交流も増え、学校全体が活気付いた。また、教職員と学生とのかかわりも増え、学生から多くの情報を得られるようになったといえる。

さくら学園の教育活動の根幹である校訓「誠心」を全職員・全学生で大切にし、一人一人の学生に寄り添った、きめ細かく丁寧な指導をおこない、卒業時には心豊かで自律心に富み、社会に貢献できる人材に成長できるよう努めている。関係施設・園からも「即戦力となり、必要な存在」と称賛されている。今後も一人一人としっかり向き合い、学生に合ったきめ細かな教育に取り組んでいく。

全教職員で、全ての学生（留学生を含む）に誠実に対応し、学生自身が自ら考え行動できるよう教育環境を整え、評価結果を真摯に受け止め、時代のニーズに応える職業教育を継続していく。

学校法人 さくら学園
慈恵福祉保育専門学校